

注3

大学番号：135

[平成29年度設置]

計画の区分：学部学科設置

注1

届出

新潟医療福祉大学 医療技術学部 救急救命学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人新潟総合学園

平成29年5月1日現在

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

医療技術学部

<救急救命学科>

ページ

1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	9
4. 既設大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	13
6. 留意事項等に対する履行状況等	21
7. その他全般的事項	24

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人新潟総合学園

(2) 大学名

新潟医療福祉大学

(3) 大学の位置

〒950-3198

新潟県新潟市北区島見町1398番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イケダ ヒロム) 池田 弘 (平成13年4月)		
学長	(ヤマモト マサハル) 山本 正治 (平成22年4月)		
学部長	(オオニシ ヒデアキ) 大西 秀明 (平成26年4月)		
学科長等	(スズキ ツトム) 鈴木 力 (平成29年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)
平成29年度に報告する内容 → (29)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は, 平成26年度開設の4年制の学科の場合(平成29年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
医療技術学部 救急救命学科 学士 (救急救命学)	保健衛生学関係 (看護学関係及び びりハビリテー ション関係を除 く。)	4 年	55 人	- 年次 人	220 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	55 (-) [-]	1 (-) [-]	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	1.00倍	
志願者数	178 (-) [-]	- (-) [-]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
受験者数	174 (-) [-]	- (-) [-]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
合格者数	75 (-) [-]	- (-) [-]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
B 入学者数	55 (-) [-]	- (-) [-]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
入学定員超過率 B/A	1.00									

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	55 [-] (-)	- [-] (-)							
2年次									
3年次									
4年次									
計	55 [-] (-)								

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成29年度 入学者	55 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人	該当なし	0.00 %
			平成30年度	人	人		
			平成31年度	人	人		
			平成32年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人		#DIV/0! %
			平成31年度	人	人		
			平成32年度	人	人		
平成31年度 入学者	人	0 人	平成31年度	人	人		#DIV/0! %
			平成32年度	人	人		
平成32年度 入学者	人	0 人	平成32年度	人	人		#DIV/0! %
合 計	55 人	0 人					0.00 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<医療技術学部 救急救命学科>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎教養科目群	基礎ゼミ	1前	1			3			2			
	情報処理 I	1前	1			4		3	1			兼1
	情報処理 II	1後	1									兼1
	情報処理 III	2前		1								兼1
	英語 I	1前	1									兼2
	英語 II	1後	1									兼2
	英語基礎強化	2・3・4前		1								兼1
	英語応用	2・3・4後		1								兼1
	英語発展	2・3・4前・後		1								兼1
	韓国語 I	1・2後		1								兼1
	中国語 I	1・2後		1								兼1
	スペイン語 I	1・2後		1								兼1
	ドイツ語 I	1・2後		1								兼1
	韓国語 II	2・3前		1								兼1
	中国語 II	2・3前		1								兼1
	スペイン語 II	2・3前		1								兼1
	ドイツ語 II	2・3前		1								兼1
	日本語表現法 I	1後		1		1						
	日本語表現法 II	1後		1		1						
	数学の基礎 I	1前		1								兼1
	数学の基礎 II	1前		1								兼1
	生物学の基礎 I	1前		1								兼1
	生物学の基礎 II	1前		1								兼1
	物理学の基礎 I	1前		1								兼1
	物理学の基礎 II	1前		1								兼1
	化学の基礎 I	1前		1								兼1
	化学の基礎 II	1前		1								兼1
	スポーツ・健康	1前・後	1									兼2
	スポーツ・実践	2・3・4前・後		1								兼2
小計 (29科目)	—		6	23		4	0	3	1	0	兼13	
保健医療福祉教養科目群	ボランティアの世界	1前		1								兼1
	コミュニケーション学入門	1前		1								兼1
	対人コミュニケーション論	1後		1								兼1
	心理学概論	1前・後		1								兼1
	人間を知る	1前		1								兼1
	命の倫理	1後	1									兼1
	QOLの世界	1後		1								兼1
	こどもの世界	1後		1								兼1
	アスリートの世界	1後		1								兼1
	臨床医の世界	1後		1								兼1
	加齢と身体	1後		1								兼1
	食を楽しむ	1前		1								兼1
	眼の神秘	1前		1								兼1
	テクノロジーの世界	1前		1								兼1
	新潟学	1後		1								兼1
	国際保健の世界	1後		1								兼1
	国民の生活と健康を支える仕組み	1前		1								兼1
	現代社会と経済	1前		1								兼1
法学 I	1前・後		1								兼1	
法学 II	1前・後		1								兼1	
小計 (20科目)	—		1	19		0	0	0	0	0	兼18	
保健医療福祉連携科目群	連携基礎ゼミ	2後	1			4		3	2			
	保健医療福祉連携学	3前		1								兼1
	保健医療福祉リスクマネジメント論	3前		1								兼1
	連携総合ゼミ	4前		1								兼1
小計 (4科目)			1	3		4	0	3	1	0	兼2	

専門基礎科目群	公衆衛生学	1前	2			1											兼3	
	人体の構造と機能 I	1前	4														兼4	
	人体の構造と機能 II	1前	4			1											兼1	
	疾患の成り立ちと回復の過程 I	1後	2														兼1	
	疾患の成り立ちと回復の過程 II	1後	2			1												
	疾病・病態学総論	1前	2			1												
	救急症候学 I	1後	2														兼1	
	救急症候学 II	2前	2			1												
	救急病態生理学	2前	2			1												
	疾病救急医学 I	2前	2														兼1	
	疾病救急医学 II	2後	2														兼1	
	疾病救急医学 III	2後	2			1												
	小児科学	2後	2														兼1	
	産婦人科学	2後	1														兼1	
	整形外科学	2前	2														兼1	
	脳外科学	2後	2														兼1	
	精神医学	2後	1														兼1	
	病院前医学概論	1後	2			1												
	専門体育基礎	1前	1			1		1		2								共同
	専門体育実践 I	2前	1			1		1		2								共同
専門体育実践 II	4前	1			1		1		2								共同	
地域災害・防災論 I	1後	1			1				1								オムニバス	
地域災害・防災論 II	2前	1			2				1								オムニバス	
小計 (23 科目)	—	43	0		4	0	1	1	0								兼9	
専門専攻科目群	救急救命処置概論	2前	2					1										
	救急救命処置学 I	2前	2					1										
	救急救命処置学 II	2後	2					1										
	救急蘇生学	2後	2					1										
	臨床病態学 I	3前	2					1										
	臨床病態学 II	3前	2					1										
	臨床病態学 III	3前	2					1										
	臨床病態学 IV	3前	2					1										
	外傷救急医学 I	2後	2			1				1								オムニバス
	外傷救急医学 II	3前	2			1												
	環境障害学・急性中毒学	2後	2			1												
	救急統計学	3前	2			1												
	救急救命活動基本実習 I	1後	3			1		3		2								共同
	救急救命活動基本実習 II	1後	3			1		2		2								共同
	救急救命活動高度実習 I	2前	4			1		3		2								共同
	救急救命活動高度実習 II	2後	4			1		2		2								共同
	救急救命活動総合実習	3前	3			1		2		2								共同
	救急車同乗実習	3後	4			1		3		2								
	医療機関実習	3後	4			1		3		2								
	コミュニケーション演習 (高齢者)	1前	1			1		3		2								共同
	コミュニケーション演習 (小児)	1後	1			1		3		2								共同
	救急救命高度演習 I	4後	2			4		3		2								共同
	救急救命高度演習 II	4後	2			4		2		2								共同
	救急救命臨床思考演習	3前	1			1		3		1								共同
救急救命基礎ゼミ	2後	1			4		3		2									
救急救命ゼミ	3後	2			4		3		2									

専門 専攻 科目 目 群	卒業研究 I	4前	2			4		3	2 ↓			
	卒業研究 II	4後	2			4		3	2 ↓			
	救急救命特講 I	3前		2		1						
	救急救命特講 II	3前		1		1						
	救急救命特講 III	4前		2		1						
	救急救命特講 IV	4前		1		1						6単位
	産業保健学	3・4前		2		1						以上
	環境衛生工学	3・4後		2						兼1		選択
	職業適性論	3・4後		1						兼1		
	労働衛生法規 I	3・4前		2						兼1		
	労働衛生法規 II	3・4後		2						兼1		
	小計 (37科目)	—	63	15			4	0	3	1	0	
合計 (113科目)	—	114	60			4	0	3	1	0		

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼任の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
114	60	0	174	114	60	0	174	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{0}{174} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	土地の購入及び新大学 用地に変更(29)			
	校舎敷地	71,428㎡	0㎡	0㎡	71,428㎡				
	運動場用地	58,612㎡	0㎡	0㎡	58,612㎡				
	小 計	130,040㎡	0㎡	0㎡	130,040㎡				
	そ の 他	118.316㎡ 122,285㎡	0㎡	0㎡	118.316㎡ 122,285㎡				
	合 計	248.356㎡ 252,325㎡	0㎡	0㎡	248.356㎡ 252,325㎡				
(2) 校 舎	専 用	47,415.01㎡ (47,415.01㎡)	共 用 (0㎡)	共用する他の 学校等の専用 (0㎡)	計 (47,415.01㎡)				
	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 (パソコンを学生に所 有させているため、情 報処理専用室を廃止)			
(3) 教 室 等	41室	34室	100室	— 室 (補助職員 — 人)	— 室 (補助職員 — 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	医療技術学部 救急救命学科			11 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共用 図書：121,250 〔12,050〕 学術雑誌：6,966 〔4,643〕 電子ジャーナル：5,623 〔4,443〕 標本：572	
		医療技術学部 救急救命学科	750〔100〕 (250〔20〕)	34〔 7 〕 (24〔 5 〕)	27〔 7 〕 (20〔 5 〕)	30 (10)	250 (250)		2 (2)
	計	750〔100〕 (250〔20〕)	34〔 7 〕 (24〔 5 〕)	27〔 7 〕 (20〔 5 〕)	30 (10)	250 (250)	2 (2)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		増築完成後の座席数、 収納冊数に変更(29)		
	2083.82㎡		394席 408席		105,360冊 107,000冊				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	6777.32㎡		屋内プール 25m×6コース 硬式野球グラウンド 1面 テニスコート 4面		屋内走路 1棟 屋内野球練習場 1棟 クラブハウス 1棟				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書購入費には電子 ジャーナル、データ ベース等の整備費(運 用コスト含む)を含 む。
		教員1人当り研究費等		400千円	図書購入費	2,000千円	2,000千円	2,000千円	
	共同研究費等		3,200千円	設備購入費	180,500千円	1,000千円	1,000千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,850千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、雑収入 等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	新潟医療福祉大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
医療技術学部						1.15		
理学療法学科	4	120	—	400	学士 (理学療法学)	1.17	平成13年度	新潟県新潟市北区島見町1398
作業療法学科	4	40	—	160	学士 (作業療法学)	1.12	平成13年度	
言語聴覚学科	4	40	—	160	学士 (言語聴覚学)	1.11	平成13年度	
義肢装具自立支援学科	4	40	—	160	学士 (義肢装具自立支援学)	1.11	平成19年度	
臨床技術学科	4	80	—	320	学士 (臨床技術学)	1.25	平成23年度	
視機能科学科	4	50	—	200	学士 (視機能科学)	1.09	平成26年度	
救急救命学科	4	55	—	55	学士 (救急救命学)	1.00	平成29年度	
健康科学部						1.13		
健康栄養学科	4	40	—	160	学士 (健康栄養学)	1.10	平成19年度	
健康スポーツ学科	4	200	3年次5	770	学士 (健康スポーツ)	1.14	平成19年度	
看護学科	4	80	3年次10	340	学士 (看護学)	1.12	平成19年度	
社会福祉学部						1.10		
社会福祉学科	4	120	3年次5	490	学士 (社会福祉学)	1.10	平成13年度	
医療経営管理学部						1.18		
医療情報管理学科	4	80	3年次5	330	学士 (医療情報学)	1.18	平成22年度	
医療福祉学研究科						1.83		
保健学専攻(M)	2	18	—	36	修士 (保健学)	1.08	平成17年度	
社会福祉学専攻(M)	2	8	—	16	修士 (社会福祉学)	0.43	平成17年度	
健康科学専攻(M)	2	10	—	20	修士 (健康科学)	1.00	平成19年度	
医療情報・経営管理学専攻(M)	2	4	—	8	修士 (医療情報・経営管理学)	0.37	平成26年度	
医療福祉学専攻(D)	3	8	—	19	博士 (医療福祉学)	2.05	平成19年度	

平成28年度入学定員増(40人)

平成27年度入学定員増(40人)

平成28年度入学定員増(5人)

大学の名称	事業創造大学院大学								備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年	設年度	所在地
事業創造研究科	年	人	年次人	人		倍			新潟県新潟市中央区 米山3-1-46
事業創造専攻	2	80	—	160	経営管理 修士 (専門職)	0.85	平成18年度		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「—」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
4	0	3	1	8	3	0	3	2	8	4	0	3	2	9
(3)	(0)	(3)	(1)	(7)						[0]	[0]	[0]	[1]	[1]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記(A)）の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記(B)）の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	2 名	3 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
医療技術学部 救急救命学科			
設 置 時 (28年7月)	完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。(医療技術学部救急救命学科)	改善意見	対応中 高い専門知識を有する専任教員を採用した結果、現在の教員配置になった。 平成29年4月に40歳代の助教1名を採用した。今後中堅・若手専任教員を採用し、年齢構成のバランスを考慮した教員組織を編制していく。(29)
医療技術学部 視機能科学科			
設 置 時 (平成25年8月)	「該当なし」		
設置計画履行状況調査時 (平成27年2月)	教員1人当たりの担当授業科目数が全体的に多く、かつ教員間の担当科目数にばらつきがある。今後学年進行が進むにつれて教員の負担が過大となり、3年次以降の実習指導に支障が出る懸念があることから、新規教員の採用や教員間の担当科目数のばらつきの見直しを検討する等し、学生への教育はもとより、教員の研究にも支障のない体制となるよう努めること。(医療技術学部視機能科学科)	改善意見	対応中 教員の確保に努め教授1名、助教1名、助手1名を採用し教員間の担当科目数のばらつきを改善していく予定であったが、平成26年度中に教授2名、講師1名、助教1名の退職と助教1名の就任辞退があり実現するに至らなかった。また、教員1人当たりの担当授業科目数についてはオムニバス科目や実習科目が多くあり科目数が多くなっている。(27)
	シラバスについて、教員によって表記方法にばらつきがあり、中には具体的な内容の記載のない科目も見受けられることから、全体の表記方法を統一するとともに、学生が内容を把握できるよう具体的な記載とすること。(医療技術学部視機能科学科)	改善意見	対応済 1年～4年のシラバスについて「表記方法のばらつき」や「記載漏れ」を改善し、学生がポータルサイト及びホームページから見ることができるようにした。(27) ※別紙「シラバス」添付。

設置計画履行状況調査時 (平成28年2月)	授業アンケートの結果が学生に十分にフィードバックされておらず、また、アンケートの結果が授業改善に繋がっているかどうかについても学生に不透明であることから、アンケートの実施回数・公表の方法・公表時期等の見直しを検討すること。(医療技術学部視機能科学科)	改善意見	対応中 授業アンケート結果は、前期科目については9月の最終週、後期科目については3月の最終週にポータルサイトに学生及び教員にフィードバックしている。アンケート結果が担当教員の授業改善につながるよう学科会議の議題にあげ審議し改善を図っている。(27)	授業アンケート結果が、授業改善につながっているかが学生に十分に伝わっていないことから、平成27年度の関連委員会(FD委員会・教育開発センター運営委員会)及び事務局において検討し全学として進める。(27)
	学生に対してオフィスアワーや教員の連絡先を周知し、教員と連絡がとりやすいような体制を整えること。(医療技術学部視機能科学科)	改善意見	対応済 ①ゼミ担当教員による定期的な学生面談の実施を継続することにより学生と教員とのコミュニケーションが密にとれる体制にした。②オフィスアワーの設定をすることにより学生への相談・質問に早急な対応ができるようにした。③教員とメールで随時連絡がとれることを学生に周知徹底した。(27)	—
	シラバスにおいて、1単位の科目の回数が7回となっていたり、さらに7回目が定期試験と記載されている科目等が見受けられ、大学設置基準第21条の授業時間数を確保できていない科目が見受けられる。単位当たりに必要な授業時間数を適切に確保するとともに、シラバスは実態と整合した記載とすること。(医療技術学部視機能科学科)	是正意見	対応済 ①回数不足の科目について記載不備のあったシラバスを確認し、授業回数について調査を行った。結果、1科目(ボランティアの世界)で授業回数1回(90分)が不足していたことが判明したため、これについて、3月31日(木)に該当科目の履修学生対象に授業回数の不足分を実施した。欠席者については、学内のLAN環境で動画配信を行い、受講するよう指示をした。 ②平成28年度シラバスから、実際の授業回数の誤記入等が発生しないよう、マニュアルの改訂をはじめとした再発防止策を実行した。(28) ※別紙添付資料有り。	—

<p>設置計画履行状況調査時 (平成28年2月)</p>	<p>教員1人当たりの担当授業科目数が多いこと、科目負担に偏りがあることについて、昨年度も辞任等があり状況が改善されていない。次年度は更に学生も増え、実習指導も増えることから、引き続き、新規教員の採用や教員間の担当科目数の偏りの見直しを検討する等、学生への教育はもとより、教員の研究にも支障のない体制となるよう改善すること。(医療技術学部視機能科学科)</p>	<p>改善意見</p>	<p>対応中 教員の確保に努め、助教1名の増員および兼任教員を追加した。さらに教員間の担当授業科目数や時間数を見直し、科目負担の偏りについて改善を図った。しかし平成28年度就任予定だった准教授1名の就任辞退があったほか、助教1名が平成28年度に産休、育休を取得することとなり、それらの担当分を他の教員で分担したため十分な改善には至っていない。研究時間については、週に1日の研究日を設定するほか、授業のない期間を利用して海外への短期留学を認めるなどして確保している。(28)</p>	<p>設置時に予定していた完成年度の専任教員数の確保に努めるとともに、実習および講義を担当する兼任教員の採用を計画している。教員を増員し、教員1人当たりの授業時間数を軽減することにより、学生への教育ならびに研究業務に費やす時間を確保する。(28)</p>
<p>設置計画履行状況調査時 (平成29年2月)</p>	<p>教員1人当たりの担当授業科目数が多いこと、科目負担に偏りがあることについて未だ十分な改善には至っていないため、今後の専任教員等の採用計画を示し、具体的な改善計画を示すこと。(医療技術学部視機能科学科)</p>	<p>改善意見</p>	<p>対応中 一身上の都合により教授1名および産休・育休で休職していた助教1名が辞任したが、教員の確保に努め教授2名、助手1名を採用した。 授業科目の内容により専任教員の配置を見直し、また兼任教員を追加し、平成29年度は科目負担の偏りの是正に着手した。(29)</p>	<p>現在、新たに専任教員を採用するため、准教授および講師を各1名、助教または助手を1名公募している。また、実習及び講義を担当する兼任教員の採用を計画している。 教員を増員し、教員1人当たりの授業時間を軽減することにより、学生への教育ならびに研究業務に費やす時間を確保していく。(29)</p>

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<医療技術学部 救急救命学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2005（平成17）年4月に教育開発委員会のFD担当部会を分離独立し、FD委員会を設置した。 ・ FD委員会規程、内規については、別添資料を参照。 <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FD委員会の担当は、各学科の専任教員（1名）及びオブザーバー（1名）計13名と事務局教務課職員1名から構成され、月1回（年間12回）委員会を開催している。 <p>c 委員会の審議事項等</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) FD委員会の年間計画について (2) 新年度新任教員FDの実施内容・スケジュールについて (3) 英語FDについて（フリートークの部およびプレゼンテーションの部） (4) セミナーおよび説明会の実施について (5) 学外FDの参加及び資料報告について (6) ランチョンFDについて (7) 部会活動（授業力向上部会・授業評価方法改訂部会・学生FD活動推進部会・グローバル化推進部会）について (8) その他 <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ワーキンググループの開催 <ol style="list-style-type: none"> ①2017（平成29）年3月2日（木） テーマ「スローラーナーに寄り添う授業方法の検討（ワーキンググループ）」 講師：三木さゆり先生（大阪市立長吉中学校） (2) セミナー・説明会の実施 <ol style="list-style-type: none"> ①2016（平成28）年10月31日（月）12:15～13:00 ポータルサイト活用セミナー 講師：塙 晴雄 教授（健康スポーツ学科）、丸山 仁 助教（社会福祉学科） ②2016（平成28）年12月19日（月）12:30～13:30 シラバスツール入稿・操作説明会 講師：㈱ウィザップ ③2017（平成29）年3月9日（木）12:15～13:00 ポータルサイト活用セミナー（小テスト作成編） 講師：五十嵐紀子准教授（社会福祉学科）

(3) ベストティーチャー表彰教員と受講学生との語る会の実施

①2016（平成28）年10月26日（水）12:20～13:00

澤田 純明 准教授（理学療法学科）、濱野 礼奈 講師（健康スポーツ学科）

馬場 康博 助教（健康スポーツ学科）、星 紀恵子 助教（社会福祉学科）

②2017（平成29）年1月18日（水）12:20～13:00

永井 徹 准教授（健康栄養学科）、山本 悦史 助教（健康スポーツ学科）

小林 志郎 講師（健康スポーツ学科）、松本 京介 講師（社会福祉学科）

(4) 学生FDサミットへの参加

①北海道大学で開催された学生FDサミット2016夏に教員1名、職員1名、学生3名が参加した。

（2016（平成28）年9月6日、7日）

②山口大学で開催された学生FDサミット2017春に教員1名、職員1名、学生2名が参加した。

（2017（平成29）年3月2日、3日）

(5) 研修会への参加

①カリフォルニア州立大学フラトン校のFDプログラム

2017（平成29）年3月20日（月）～27日（月）

教員5名

(6) 授業評価方法検討ワーキンググループの実施

授業評価方法の改善を目指し、学生・教職員によるワーキンググループを実施

①2016（平成28）年7月18日（月）18:15～19:30

②2016（平成28）年9月27日（火）18:15～19:30

③2016（平成28）年10月18日（火）18:15～19:30

④2016（平成28）年11月22日（火）18:15～19:30

⑤2016（平成28）年12月20日（火）18:15～19:30

⑥2017（平成29）年1月24日（火）18:15～19:30

(7) 学外FD支援（広報・経済的支援）

学外FDの案内があった時は事務局よりメール等で広報した。

b 実施方法

- ・学内FDについて：全教員宛にメール配信で各学内FDの実施連絡を行い、参加を促している。
参加後には、FD委員長宛に参加報告（感想等）の提出を求めている。
- ・学外FDについて：FD委員会において、学外からの案内を委員長から各学科の委員に行い、各学科のFD委員は、毎月1回の学科会議において案内を通知し、参加希望を募り、参加した場合、報告書の提出を求め委員会報告および合同教授会へ資料報告を行っている。なお、FD委員会の内規に基づき、参加費用の補助を行っている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- (1) 学内FD活動として、ランチョンFD等の積極的な実施。2015（平成27）年度から、学生とのFD活動を新たな活動として加えた。
- (2) 学外FDとして、海外の提携校を含む様々な学外の活動に参加している。

（主な開催の状況）

- ①ランチョンFDとして、ベストティーチャーに選ばれた教員およびその科目履修学生によるトークセッションを開催。学生の習熟度を深める様々な取り組みを紹介・共有することにより教員全体の質の向上を図っている。
- ②国内でのFD関連ワークショップ・講習会等には、関係教職員が積極的に参加している。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- (1) 「面倒見の良い大学」を目指すべく、積極的に他大学の取り組みなどを研究し情報提供を行う。
- (2) 学外FDなどに参加した教員の報告などを、合同教授会・ランチョンFDにて実施を検討中。
- (3) 学生との懇親会を実施して、学生の意見を取り入れたFD活動の実施。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期（前半・後半）後期（後半・前半）に開講される科目で、マークシートを記入する方法で実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

学内サイトを利用して、教職員学生に集計結果を公開している。また、教員には結果を基に学生へのフィードバックを依頼している。フィードバック結果についても学内サイトで、学生・教職員に公開している。

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学科は、チーム医療の一翼を担う病院前救急救命医療に携わる医療専門職者として、専門的知識・技能を基盤とした科学的考察に基づく総合的な問題解決能力を有するとともに、健全な人間性と倫理観、強い使命感と奉仕の精神を持ち、他専門職者と協働して病院前救急救命医療及び災害・防災の分野において地域社会住民の保健に貢献することができる救急救命士を養成することを目的として設置された。平成29年4月に8名の専任教員(教授3, 講師3, 助教2)が着任し、入学生55名を迎えて初年度の教育課程がスタートした。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

・平成26年4月2日 公表

b 公表方法

・自己点検・評価報告書を刊行し、主に医療福祉系の大学(約200大学)に配布した。
・大学ホームページ上に公開(平成26年4月2日に掲載済み)

③ 認証評価を受ける計画

・平成32年度に評価機関(日本高等教育評価機構)の評価を受けるべく、学内で検討中

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無

(有 無)

b 公表時期(未公表の場合は予定時期)

(2017年 9月 1日)